

手もとをよく見る

(年取るということ日誌から)

CL教育研究会 遠間美保子 amhotm@gmail.com http://docl.jp



2008/03/19

コンピューターの画面を見ながら英単語を調べようとして、普段キーボードの横に置いてある電子辞書を手にして、カバーを開けようとしたとき、注意が画面から手にいって、感触は同じだがいつもの電子辞書の形と違うのに気づく。手にしていたのはデジカメ。

化粧水が入った中指ほどの小さなスプレー容器には、透明のキャップがついている。スプレーをする際、失くさないようにキャップを開けて、どこに置くか、使い終えてキャップを閉めたか、チェックするのは十五年以上CLを習慣づけた私にはお手の物…とあたり前のことに自負する。ところが、今朝、使ったあと、キャップが見つからない。あら、確かここに置いたのに（どこに置いたかをチェックしていない証拠）…、床に落ちたのかしら、透明だから良く見ないと…と捜したがない。手にしている容器に目がいくと、なんと、キャップはすでにカバーされている。観察チェックも完璧はない。これもときどき、「人間そんなもんだ…」のレイノルズ先生の話が浮かぶ。年のせいでも、自分への慰めでも起きた事実は事実なだけ、さて、朝食の準備！

2008/04/16

「今日何日だったかしら？」と聞く私に「13日じゃないか」と夫。「えっ！まだでしょ（11とチェックしたのは昨日じゃなかったかしら？…）」事実を確かめるために朝刊を見ると十六日だった。新聞は日付の事実さま？それよりこのやりとりを息子が聞いたら不安を抱くに違いない。特に私に。

2008/04/20

仙台に70歳の義姉と暮らす九十五歳の姑との電話から

「足腰が痛いのはこの年でしょうがないからとっくにあきらめたわ。おやじさん(とっくに亡くなった夫)に毎日早く来てくれって頼んだけど、お迎えに中々来てくれないから死ぬのも諦めた。みなさんにお世話になりっぱなしで、なんのお返しもできずに、ご迷惑かけるばかりだけど、これからもよろしくお願いします」とこちらの内観の挨拶向上をすっかり言われ、恐縮しながら元気づけるつもりで「お母さんのお姉さんの年（101歳）までは、まず生きなくちゃね」と返事した。死にたいと言ううつ病の生徒とは逆に、母の「諦めた」の言葉は、長生きも諦めながら生き続ける努力に尽きると教わった。

2008/6/4

晴れているのに突然夕立のように雨が落ちてきた。晴れの地点と雨降る地点の境界線を一瞬目にはできても、はっきりと区分する地点に立つことはできないように、死と生の境界は曖昧なのだろう。

(千葉県市川市 CL インストラクター)

 [目次へ戻る](#)